

## 齶蝕学分野

### 論文

#### A 欧文

##### A-a

1. Fukuda H, Saito T, Kihara E, Ogada C, Wagaiyu E, Hayashi Y, Oral hygiene status of chewing stick users in a rural Kenyan community, *Oral Health and Dental Management*, 15(1), 27-30, 2016 (IF:1.12)
2. Ookubo K, Ookubo A, Tsujimoto M, Sugimoto K, Yamada S, Hayashi Y, Scanning electron microscopy reveals severe external root resorption in the large periapical lesion, *Microscopy Research and Technique*, 79(6):495-500, 2016 (IF:1.130)
3. Capati MLF, Nakazono A, Igawa K, Ookubo K, Yamamoto Y, Yanagiguchi K, Kubo S, Yamada S, Hayashi Y, Boron accelerates cultured osteoblastic cell activity through calcium flux, *Bio Trace Elem Res*, 174(2):300-308, 2016 (IF:1.798)
4. Kanamaru J, Tsujimoto M, Ookubo K, Yamada S, Hayashi Y, Multiple analyses of 140 case of vital molars with cracks, *International Journal of Microdentistry*, 7(2):92-99, 2016
5. Capati MLF, Nakazono A, Yamamoto K, Sugimoto K, Yanagiguchi K, Yamada S, Hayashi Y, Fish collagen promotes the expression of genes related to osteoblastic activity. *International Journal of Polymer Science*, vol. 2016, Article ID 5785819, 7 pages, 2016 (IF: 1.0).
6. Hayashi Y, Igawa K, Sugimoto K, Yanagiguchi K, Yamada S, A cheek erythematous lesion improved by pulpectomy and root canal treatments of vital molars. *Japanese Journal of Conservative Dentistry*, 59(5):444-449, 2016.

##### A-c

1. Hayashi Y, Kaida K, Igawa K, Yamada S, Ikeda T, and Yanagiguchi K, Chapter Thirty-two, D-glucosamine Contributes Cell Membrane Stability. In *Marine Glycobiology: Principles and Applications*, ed. Se-Kwon Kim, CRC Press, pp. 439-444, October 2016.

#### B 邦文

##### B-a

1. 山田志津香, 池田 毅, 山本耕平, 柳口嘉治郎, 林 善彦, 魚コラーゲンペプチドの骨欠損部再生への有用性. *日本歯科保存学雑誌*, 59(5):425-431, 2016.

##### B-b

1. 金丸順策, 林 善彦, 総説 生活大臼歯の亀裂と咬合との関係, *日本歯内療法学会雑誌*, 38(1): 24-30, 2017.

##### B-c

1. 林 善彦, 柳口嘉治郎, 山田志津香, キチン・キトサンの最新科学技術 機能性ファイバーと先端医療材料, 分担執筆, 第14章 転園生理活性素材キトサンをジーンデリバリーシステムに活用した硬組織(象牙質)再生療法の開発, pp. 227-238, 技報堂出版, 東京, 2016
2. 辻本真規: マイクロスコープの特徴(北村和夫編著, 歯内療法の三種の神器 すぐに役立つ世界標準のテクニック & 最新トレンド, 株式会社デンタルダイヤモンド社, 東京, p 26-31 所収)

### 学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	0	0	2	0	7

### 社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
林 善彦・教授	副理事長	日本歯科保存学会
林 善彦・教授	常任理事、学会誌編集委員長	日本歯内療法学会
山田志津香 ・准教授	評議員・編集連絡委員	日本歯科保存学会
柳口嘉治郎 ・講師	評議員・編集連絡委員	日本歯科保存学会

## 競争的資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
林 善彦・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(B) ケニア無歯科医地域での健康人口学的調査を活用した統合型口腔環境疫学データの構築
林 善彦・教授	日本学術振興会	代表	挑戦的萌芽研究 石灰化に影響する微量元素ホウ素の骨芽細胞増殖・分化にはCaイオンチャネル系が関与
山田志津香 ・准教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 天然生理活性ペプチドのヒト歯髄由来幹細胞培養・移植による骨再生能の解析
山田志津香 ・准教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 自己組織化機能を有するヒト由来 iPS 細胞を用いた歯髄組織再生の具現
井川一成・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) 離島地域住民を対象とした口腔健康状態とADL・QOLとの相関性の検証
辻本真規・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) 垂直歯根破折歯の総合的修復法の検討
松裏貴史・助教	日本学術振興会	分担	基盤研究(B) ケニア無歯科医地域での健康人口学的調査を活用した統合型口腔環境疫学データの構築
松裏貴史・助教	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 自己組織化機能を有するヒト由来 iPS 細胞を用いた歯髄組織再生の具現
松裏貴史・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) 体性幹細胞ホーミング因子を用いた新規根管充填法の開発
杉本浩司・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) ヒト iPS 細胞を用いた低酸素培養による基礎的研究
杉本浩司・助教	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 自己組織化機能を有するヒト由来 iPS 細胞を用いた歯髄組織再生の具現

## その他

### ○特筆すべき事項

- ① 再生歯科充填材(Scaffold)の研究・開発を行った
- ② 歯髄再生療法へ向けた歯の移送実験を実施した
- ③ 日本歯科保存学会指定研修施設である
- ④ 日本歯内療法学会認定研修施設である